

# vivo

水戸芸術館音楽紙 [ ヴィーヴォ ]

# 12&1

DECEMBER/JANUARY  
2002/2003

## CONTENTS

[ 増ページ特別号 ]

クリスマス・プレゼント・コンサート2002 1~2	日本のうた セミナー .....	2
市内小中学校芸術館コンサート& ニュー・イヤー・コンサート2003 .....		3
ちょっとお昼にクラシック2 .....		4
最近の公演から .....		5~6
ネットマ特別版「ジカダンパン報告」..7~9		
インフォメーション .....		10



写真上 / クリスマス・プレゼント・コンサート2001  
写真下 / ニュー・イヤー・コンサート2002



## 聖夜を彩る豪華な8つのステージで、ヨーロッパを巡る名曲旅行はいかが？

12 / 23(月)クリスマス・プレゼント・コンサート2002

水戸ゆかりの演奏家とゲストが協力し合い、ヴァリエティ豊かなプログラムを創り出す水戸芸術館のクリスマス・コンサート。お楽しみコーナーのプレゼント抽選会では、思わぬ幸運があなたを待っているかも!? もちろん、コンサートの「音楽のプレゼント」はご来場の皆様全員にお届けします。今年は8つのステージをご用意しました。

### 豪華声楽キャストによる声の饗宴

今年も豪華な声楽陣が祝祭の夜を盛り上げます。中でも聴きどころとなるのは、日本のオペラ・シーンに欠かせない大島洋子さん(ソプラノ)、星洋二さん(テノール)、大島幾雄さん(バリトン)そして谷池重紬子さん(ピアノ)が揃って出演するシューベルトの音楽小喜劇「婚礼の焼肉」(第7ステージ)。物語は、結婚式を明日に控えた2人が婚礼の席に出す料理のため、兎狩りをしに禁猟の森へ入っていき、森の番人に見つかってしまうというもの。他愛もない筋書きですが、各人物の性格が実に鮮やかに音楽で描写されている、シューベルトの隠れた逸品です。畑中良輔による日本語訳の台本にもご注目下さい。

婚礼の焼肉 の出演者は、さらに別のステージでも登場します。大島洋子さんと星洋二さんは第4ステージ「情熱のイタリアン・セレナーデ」で得意のイタリア歌曲を2曲ずつ披露。第5ステージ「モーツァルト・声の愉しみ」では、モーツァルト歌劇から二重唱の4つの名場面を、大島洋子さん、大島幾雄さんによる息の合ったアンサンブルでお楽しみいただけます。

さらに古英語歌曲とスペイン歌曲のスペシャル・服部洋一さん(テノール)も出演。まず第2ステージ「アイリッシュ・ハーブの調べ」では、昨年に続き出演のハーピスト千田悦子さんのアイリッシュ・ハーブによる伴奏によって、アイルランド民謡を演唱。そして第6ステージ「スペインの幻想」では、カタルーニャに伝わるクリスマス・ソング「鳥の歌」など、3曲のスペイン民謡を披露します。

開幕と終幕を飾るのは、水戸の演奏家

水戸芸術館のクリスマス・コンサートといえば、水戸を中心に活躍する演奏家たちも登場します。まずは第1ステージに登場する水戸市在住のピアニスト・中村真由美さん佳代さん姉妹。フランス

生まれの2つのピアノ・デュオ作品で開幕を飾ります。さらに第3ステージでは中村佳代さんが今度はソロでメシアン「幼子イエスに注ぐ20のまなざし」から「幼子イエスの接吻」を演奏。そして最終ステージでは中澤敏子さん指揮、野ばら会・カラコレス女声合唱団によるキャロリングが皆様をお待ちしています。今回はvivo読者の皆様のために、中村真由美・佳代さんと、中澤敏子さんからステージ紹介を兼ねてメッセージを載しましたので、ご覧下さい。

声楽キャストでお届けする、オーストリア、イタリア、アイルランド、スペイン各国の歌と、中村さん姉妹によるフランスのピアノ曲、そして最後は世界共通の歌ともいえるクリスマス・キャロル。今年のクリスマス・コンサートはさながらヨーロッパを名曲で巡る一夜の旅のようになりました。ぜひご家族揃って、聖夜の名曲旅行をお楽しみ下さい。

《松田》

中村真由美・佳代さんからのメッセージ  
5年ぶりの水戸芸術館での2台ピアノのステー



9月の日本のうた セミナーより

ジということで、今からワクワクしています。私達はそれぞれソロの活動もしていますが、ピアノ・デュオの魅力にもとりつかれ、私達の未知の曲に出会うのをこの上ない楽しみにしています。楽譜も少しずつ集めていますが、まだ1音も弾いていない曲がたくさんあったりして……。今回演奏依頼のあったシャプリエは、面白そうかなと思って楽譜を購入していた曲でした。何か巡り合わせを感じます。もう1曲は自由に選んでよいという事だったので、即決でお気に入りのブランクの小品を選びました。

私達なりに感じるピアノ・デュオの魅力は、ソロでは味わえないアンサンブルの楽しさ、音楽的な広がり、幅広い音色の変化など。ピアノ・デュオの難しさは様々ですが、タイミングやバランスの取り方に特に神経を使います。姉妹でのデュオの強みは、練習の時に、思ったことをはっきり言い合えることでしょうか。お互い納得のいくまで話し合います。時には、あまり言いたいことを言い過ぎてけんかになることもあります……。けれどもあまり言葉で表現しなくても、お互いのやりたい事がわかるというのは同じ血がなせる業? と思っ

りもします。

このように文章を綴っていくと、また新たにピアノ・デュオに対する熱い思いが湧き起こってきます。今年のクリスマス・コンサートに足を運んで下さる皆様の中には、ピアノ・デュオのステージを初めてご覧になる方もおられると思いますが、一人でも多くの方にピアノ・デュオの楽しさを感じて頂けたら幸いです。そのためにも、本番へ向けてラストパート!

中澤敏子さんからのメッセージ

芸術館のクリスマス・コンサートにはこれまで何度か出演してきましたが、4年前の市民オペラ・ヘンゼルとグレーテルの時は子供たちの合唱を指導しました。彼らにとって、プロの音楽家と同じ舞台と一緒に作っていった経験はきっとかけがえないものになったのでしょう。その時歌っていた子供の中には、今も歌を続けていて、カラコレスの団員として今年の舞台に立つ人もいます。

今回演奏する オー・ホーリー・ナイト は、私にとりまして合唱する喜びを与えてくれた歌なのです。昭和29年、初めて音楽の教員になったとき、

ロジェー・ワーグナー合唱団が歌うこの曲をレコードで聴いたのです。合唱のキャリアが全くなかった私にとって、それはとても新鮮な響きで、すごく感動しました。「合唱ってなんて素晴らしいんだろ」と思ったのです。その後、私も合唱団を指導するようになりましたが、オー・ホーリー・ナイトの時はいつもロジェー・ワーグナーさんの解釈を思い出して指揮してきました。

オー・ホーリー・ナイトの他の曲も きよしこの夜 神のみこは など、誰でも親しめて歌えるようなキャロルを選びました。皆様が一緒に歌いたくなるステージにしたいと思います。どうぞ、お聴き下さい(談)

## 昭和初期の前衛作曲家、橋本国彦の歌曲の世界 12 / 7(土) 畑中良輔の日本のうた セミナー 第2期 第2回「橋本国彦」

これまで、山田耕筰と、彼と同世代の作曲家・信時潔、弘田龍太郎を取り上げてきた「畑中良輔の日本のうた セミナー」。山田たちが活躍した時代を日本歌曲創成期とすると、これからはいわば継承期へと入ります。講師の畑中良輔は、一昨年、開館10周年記念事業「日本の歌・この100年」シリーズで、日本歌曲の歴史を「創成期」「継承期」「現代」の3回に分けて紹介するコンサートを開催しました。それが大変好評で迎えられたのを受け、畑中が昨年からはじめたのがこの日本歌曲セミナーです。コンサートで紹介した名曲の魅力を、今度は公開レッスンを通してより詳しく解説し、時には音符ひとつひとつが持っている意味までお伝えしています。

さて、日本歌曲継承期を代表する最初のひとり、今回のテーマである橋本国彦(1904~49)です。研究曲は、彼が1925年から29年の間に書いた牡丹、斑猫、徴、舞そしてお菓子と娘の5曲。橋本は当時最先端の作曲技法をいち早く創作活動に取り入れました。ベートーヴ

ェンやブラームスのようなドイツ音楽が主流だった当時の日本の楽壇において、ドビュッシー、ラヴェルなど、当時のフランス音楽で用いられていた和声や曲調を取り入れたのは珍しかったでしょう。舞のピアノ・パートに無調的書法を用いたのも、新鮮な試みでした。一方で、橋本は伝統的な邦楽や日本の芸能にも着目しました。歌舞伎や長唄の節回しや、日本民謡に見られる旋律の要素を日本歌曲の創作に取り入れていったのです。こうして、橋本はフランス音楽を思わせる彩りの変化に富んだ和声と、日本の伝統が息づいた旋律を見事に融合させた歌曲の世界を創り上げました。

昭和初期の前衛作曲家だった橋本国彦。私達が今その歌曲作品を聴いても、当時の斬新さが少しも色褪せていないことに気付かされます。これまで本格的に橋本歌曲を聴いたことがなかったという方も、70年以上も前の日本にこれほど前衛的な作曲家がいたのかと驚かれるに違いありません。講師の畑中は学生時代、この橋本による作

曲の講義を生で聞いています。そうした実体験に裏付けされたレクチャーをお聞きいただき、このセミナーで受講生と同じように橋本歌曲と向きあってみてはいかがでしょうか。そしてミニ・コンサートで再び橋本歌曲を鑑賞するとき、それまで気がつかなかった作品の魅力がより明確になって見えてくるに違いありません。今回、ゲストには橋本歌曲を十八番とする青山恵子さんを迎え、斑猫ほか数曲をお聴きいただきます。セミナーを締めくくりに相応しい、橋本国彦の世界に深く迫った歌唱にご期待下さい。

《松田》

【受講生】

小松由美子、茅根順子(ソプラノ)  
杉山知勢子、廣澤敦子(メゾ・ソプラノ)

【ゲスト】

青山恵子(メゾ・ソプラノ)、田中直子(ピアノ)



小松亮太

## アートタワーみとスターライトファンタジー 12/8(日)第7回クリスマス・コンサート[市内小中学校 芸術館コンサート]

水戸芸術館や水戸駅のライトアップでおなじみのアートタワーみとスターライトファンタジーとの共催により、昨年からコンサートホールATMで行われるようになった子供たちの手による「クリスマス・コンサート」。市内の小中学校で熱心に音楽活動にはげむ子供たちが、日頃の成果を競い合います。

聞くところによれば、様々な音楽祭やコンクールなどで演奏する機会はあっても、時間やステージ上の制限が多く、なかなか子供たちが自由な創

造力を発揮することはできないそうです。それらと比較すれば、この芸術館でのコンサートは、1グループあたりの演奏時間は約15分と長く、曲目も自由ですし、ステージ上の制限もありません(室内楽ホールなので多少狭いですが...)。昨年も、ステージ上を縦横無尽に行進したスクールバンドや、独自の音楽劇を上演した金管合奏など、様々なキャラクターを持ったグループが次々に登場し、子供たちのあり余るエネルギーを噴出させていました。ただアンサンブルの技術を競うだけではなく、どう

したらお客様に楽しんでもらえるのかを子供たち自身が考え、発表できる催しとして、このコンサートはユニークな存在になりつつあります。

今年は、17校21グループの総勢793名の子供たちが、午前と午後に分かれて、楽しいステージを繰り広げます。おなじみの金管合奏、吹奏楽だけではなく、合唱やハンドベル、リコーダー合奏なども登場します。入場無料につき、お気軽にご来場ください。

《関根》

## 小松亮太登場! ニュー・イヤー・コンサート2003は“血の騒ぐ”音楽の宴。 1/5(日)ニュー・イヤー・コンサート2003

やれやれ、2002年も疲れる1年でしたねー。右を向いても左を向いても、気が滅入るようなニュースばかり。2002年の始まりを“Festivo!”のかげ声ではじめたコンサートホールATMですが、現実社会はなかなか「祝祭的に」とはいかないようです。じゃあ、巷に満ち溢れる「癒し系」にはまるのか、といってもあまりすぎて元気まで抜かれてしまっっては仕方ありません。2003年の水戸芸術館ニュー・イヤー・コンサートは、「癒し系」優勢のこの世の中にあえて「元気」を注入すべく、キーワードにスペイン語のApasionada!(情熱的に)を選びました。その名の通り、スペイン、イタリア、フランスから中南米の国々の血湧き肉躍る音楽を集めてお送りする一夜です。登場する専属楽団メンバーは、ヴァイオリンが加藤知子、久保陽子、久保田 巧、小林美恵、田中直子、中村静香、沼田園子、原田幸一郎、堀 伝、安田明子。チェロは秋津智承、堀 了介、松波恵子、安田謙一郎。コントラバスが黒木岩寿、永島義男。そして管楽器はトランペットが杉木峯夫、ホルンが水野信行。そしてピアノ、チェンバロにニュー・イヤー・コンサート皆勤賞(!)の藤井一興。こうしたおなじみのメンバーに、今年は「ラテンといえばこの人さ!」とバンドネオンの小松亮太を迎えます。人気絶頂の小松亮太、水戸芸術館コンサートホールにはこれが初登場。そしてチラシの時点ではまだ決まっていなかった司会者には、前回「ミスターX」としてチラシに掲載し、その正体をめぐって熱い議論

が沸騰した、古谷敏郎。ユーモアあふれる司会で大好評だった前回に続いての再登場となります。内容は...いつもと同じ、開けてびっくりの「新年福袋コンサート」、内容は当日までのお楽しみ!

おや? もう終わってしまった! いやー、ニュー・イヤー・コンサートの紹介、いつも頭が痛いのです。福袋の中身を、あらかじめ公開してしまったら、楽しさ半減ですから...。今回もチケットは好調な売れ行きで、このままだと完売が予想される状況ですが、これも多くのお客様がこの「福袋」を毎年楽しみにしていただいていることの証でしょう。その中身をあらかじめバラしてしまうなんて、そんな野暮なこととはとてもできません...。

とはいえ、今回ゲストとして水戸芸術館に初めて登場する小松亮太のことはぜひとも触れておかなければなりません。1973年生まれ、まだ20代という若さながら、今や日本のバンドネオン奏者の代名詞といってもいい存在です。数年前からのピアソラ・ブームによって日本でも新たなタンゴの聴衆が増えつつありますが、小松亮太の活躍はそのブームを「本当の意味での受容と理解」に結びつけて行くものではないでしょうか。

小松亮太の武器として、幅広いジャンルのアーティストと共演できる柔軟な音楽性をまず挙げたいと思います。共演リストにTHE BOOM、ゴンチチ、葉加瀬太郎、ダンサー 熊川哲也、そしてNHK交響楽団(ピアソラの バンドネオン協奏曲 を2002年7月に共演)が並ぶというのは壮観です。

こうしたジャンルを超えた「異種格闘技」セッションが、どれだけタンゴの間口をひろげ、他ジャンルの音楽ファンをとりこんでいったことでしょうか。そしてミルバヤアルゼンチン・タンゴの巨匠ラバジエンといった名前が、そのリストにさらなる輝きを加えます。

その一方で、タンゴというジャンル、バンドネオンという楽器の真摯な啓蒙者としての側面も書き落とすことはできません。まだ20代の若さながら教育者としても活躍し、弟子たちと組んでバンドネオンだけの四重奏による「オルケスタ・ティピカ」を結成しています。最近では本場アルゼンチンでもあまり聴かれなくなった「オルケスタ・ティピカ」を日本で実現してしまうあたり、なんとも心にくいではありませんか。(「オルケスタ・ティピカ」としての演奏は『ライブ・イン・TOKYO 2002』(ソニークラシカル&ジャズ SICCC88で聴けます。すごい迫力です!)「小松亮太さんをぜひ!」の声はこれまでアンケートでも数多くお寄せいただいていたのですが、いよいよ実現となるわけです。

日の出の勢いの小松亮太の登場に、専属楽団メンバーも黙っているはずがありません。バンドネオンに負けじと、とっておきのレパートリーを準備しています。新年早々、コンサートホールATMがなんだか熱いことになりそうですよ!

《矢澤》

写真左から;  
久保陽子  
森枝繭子  
椎名雄一郎



## 「ちょっと」優雅な昼下がりをコンサートホールで過ごしてみませんか? 1/31(木)ちょっとお昼にクラシック2 エレガントな気分で三重奏(トリオ)はいかが?

### 優雅なお昼休み

コンサートの入場料金の可能な限りの低価格化に挑戦!そして実現したのが1,200円、しかもドリンク付き!! というわけで、音楽会らしからぬ売り文句ではじめてしまいましたが、その中身はご安心ください。水戸芸術館が選りすぐった演奏家とプログラムでお届けするシリーズ、それが「ちょっとお昼にクラシック」です。本シリーズは、平日の午後で開催する1時間の演奏会です。お昼休みのひとときをいつもよりちょっと優雅に過ごしてみませんか?

### 名演を繰り広げてきたプレイヤーたち

今回は「エレガントな気分で三重奏(トリオ)はいかが?」というタイトルで、ヴァイオリン(久保陽子)、オーボエ(森枝繭子)、オルガン/チェンバロ(椎名雄一郎)の演奏をお楽しみいただきます。久保陽子は、水戸室内管弦楽団(MCO)のメンバーで、第46回定期(2001年、指揮:ジャン・フランソワ・ピヤール)のルクレール ヴァイオリン協奏曲 作品7の2 の演奏では独奏者として出演し、また、先日の第52回定期のヴァーグナー ジークフリート牧歌 ではコンサートマスターを務めるなど、MCOが誇る弦セクションの中核的な役割を担うヴァイオリニストです。森枝繭子もMCOと縁の深い演奏家で、第35回定期(1998年)や第48回定期(2001年)にゲスト出演し、熟達したMCOメンバー達と堂々と張り合い、端正で温かな演奏を聴かせてくれている若き才媛です。椎名雄一郎は、900回を超える当館のプロムナード・コンサートの歴史のなかでも、ひととき輝く名演を重ね、また、今年8月に行われた北ドイツ音楽賞国際音楽コンクールで第1位を獲得するなど、今まさに国際的な舞台へと「売り出し中」のオルガニスト/チェンバリストです。今回が初めてとなるこの3人の共演にご期待ください。

### 百花繚乱のプログラム

今回登場する楽器をあらためて見渡してみてください。実は弦楽器(ヴァイオリン)、管楽器(オーボエ)、鍵盤楽器(オルガン、チェンバロ)というように、楽器分類の観点からすると、3人の演奏する楽器は皆、異なる種別に分かれているのです。

(ちなみに第1回公演は打楽器[出演:加藤訓子、マイケル・ヴァイラヒャー]でしたので、この2回を続けてお聴きになる方は、オーケストラに登場する全ての楽器の大分類を網羅してしまうことになります!)このように、個性の異なる3種類の楽器が織り成す多彩な音楽の世界へと皆様をお連れします。

演奏会の幕開けは、J.S.バッハの トリオ ヘ長調 BWV1040。同じバッハの カンタータ第208番 BWV208 と同じ主題をもつ作品で、限りなく清澄なアンサンブルが、エレガントな午後の時間への扉を開かせます。

続いて、鍵盤楽器のソロ・コーナー。ケルルの郭公(かっこう)のテーマによるカプリッチョ とリゲティの ハンガリアン・ロック の2作品。ケルル作品は、可憐な音が魅力のポジティブ・オルガンで演奏されます。ケルルはJ.S.バッハより半世紀前に活躍したドイツの作曲家・オルガニストです。バロックの幾何学的な美しさをご堪能ください。続くリゲティ作品は、20世紀のチェンバロ独奏曲。「クラシック音楽」と「ポピュラー音楽」の要素が結婚した作品」と作曲家は語っています。どのような音楽か乞うご期待!

オーボエのソロ・コーナーでは、フォーレの 夢のあとに やサン・サーンスの オーボエ・ソナタ 二長調 作品166 の第3楽章などが登場します。夢のあとに は、優しく柔らかなオーボエの旋律にうっとりできる作品です。一方、サン・サーンス作品は、早いパッセージを小気味よく聴かせる快活な音楽です。

そして、いはい久保陽子のヴァイオリン・ソロ。グノーの アヴェ・マリア とパガニーニの パイジエツの『水車屋の娘』の“うつろな心”による序奏と変奏曲 が取り上げられます。アヴェ・マリアは誰もが知っている名旋律。タイトルの通り聖母のごとき魂に触れる音楽です。そして、音楽の華といえは超絶技巧!パガニーニ作品で久保のテクニクが大披露されます。

めくるめく1時間の演奏会の最後を飾るのは、J.S.バッハの作とされる トリオ・ソナタ 八長調 BWV 1037 の第4楽章。イギリス起源の躍動的なジグと呼ばれる舞曲です。個性の異なる3つの楽器が美しく調和します。

なお、このコンサートは同時期に開催される水戸市内の中学1年生が参加する「中学生のための芸術鑑賞会」と同じプログラム、出演者をお届けするものです。中学1年生のお子さんをお持ちの方には、同じコンサートを体験していただくことができます。

演奏会が終わってホールをあとにする時、皆さんの顔が優しく微笑んでいたらどんなに素晴らしいか……。そんな想いととも、このコンサートをお届けします。

\*託児サービスがあります。1月8日(水)までに水戸芸術館音楽部門(TEL029-227-8118担当:中村、馬場)にお申し込みください。

《中村》

## 最近の公演から

SEPTEMBER  
OCTOBER



1



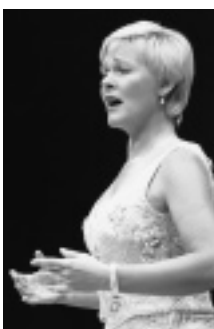
2



3



4



5



6

ミト・デラルコ2002秋ツアー  
東京演奏会(10月10日)  
第5回演奏会(10月12日)  
栃木演奏会(10月13日)

ミト・デラルコ第5回演奏会は、モーツァルト晩年の傑作、弦楽三重奏のためのディヴェルティメント 変ホ長調 K.563 を核に、各楽章の間にモーツァルト、ハイドン、ベートーヴェンの名作をさみこんでゆく「18世紀風」プログラムによる演奏会。あちこちに仕掛けた「遊び」の数々、楽しんでいただけましたでしょうか。

そう「遊び」は今回のひとつのキーワードでした。18世紀の音楽会のかつろいだ雰囲気を出したいというメンバーの野望(?)はとどまることを知りません。「出演者も弾いていないときは“聴衆”の一人に!」とばかり、ステージには丸テーブルと椅子が用意され、花が飾られ、弾いていないメンバーは椅子に腰かけて悠然と演奏を楽しむ、という趣向に相成りました。「デキャンタに入っていた液体はなんですか?」というお問い合わせもありましたが...飲んでいた鈴木秀美さん、真相は?「もちろん“赤ワイン”でございます!」ちなみに東京では“白ワイン”、栃木では和風な舞台装置に合わせて「お茶」でした。そうそう 今回の「3人編成ミト・デラルコ」の演奏会が、強力な助っ人の存在に支えられていたことにも、触れておこなくはなりません。クラークのフォルテピアノと共に芸術館に初登場した小島芳子さん。実はクラークのピアノ自体は7年前のインマゼールのリサイタルで芸術館の舞台上がっていたのですが、今回めでたく本来の持ち主との共演となりました。小島さん、足のケガが完治せず松葉杖をついての登場でしたが、東京・水戸・栃木と微妙に異なるプログラムをみごとに弾ききりました。なお、複雑なプログラム構成を実現にくださった東京(近江楽堂松木アートオフィス)・栃木(栃木[蔵の街]音楽祭実行委員会)の各主催者の皆さまには、心よりお礼申し上げます。

演奏についてはアンケートからの抜粋をごらんいただくとして、ここではまず東京公演の際、休憩時に担当者に手渡された一通のアンケートを紹介しましょう。「寺神戸、森田、鈴木さんへ 1950年代からK.563をA.グルミオー(往年のベルギーの名ヴァイオリニスト。近年はグリュミオーの表記が多い)のトリオでLPのちCDで聴いてきました。一生のうち初めてにして最後のK.563の生演奏と思います。とくに5楽章のトリオ中間部でviolaが3つの音符で始まる出初めが、グルミオートリオは絶妙です。後半楽しみにしています。よい企画をありがとう!」相当のご年配とおぼしきこの方、オリジナル楽器の演奏にも積極的に耳を傾けるフレッシュな感性の持ち主とお見受けします。後半も楽しんでいただけたことをもちろん、フォルテピアノも!《矢澤》アンケートから アンテ

ィークな家具のようでとても素敵なフォルテピアノで弾かれるモーツァルトは18世紀風の感じでお花とワインの置かれたテーブルのセットもあって、ウィーンの宮廷かどこかにいるような雰囲気でした。今回、チラシもすぐおしゃれだったので、すてられません...。(高萩市:A.T.さん) 特に小島さんと鈴木さんのベートーヴェンは素晴らしかったと思います(水戸市:M.さん) 豊かな自発性が密度の高い共演が実現された(高萩市:A.E.さん)\*A.E.さん、長いコンサートになってすみません。帰りの電車、忙しかったんですね...。

只今妊娠8ヵ月半、とてもリラックスして聞けました。嬉しい(水戸市:M.S.さん)

-----  
バーバラ・ボニー ソプラノ・リサイタル  
(10月14日)

シューマン 詩人の恋 をはじめ、男声用リートによるプログラムが新鮮だったバーバラ・ボニー ソプラノ・リサイタル。前半の 詩人の恋 では、まるで詩の中で語られる女性から詩人を見つめているような、慈しみ深い歌を聴かせてくれた。後半はシューベルトとリスト。名曲が並べられたシューベルトのステージについて、終演後にボニーは素晴らしい聴衆! 曲のことをよく知っていて、シューベルトの歌曲と一緒に口ずさむように聴いているのが見えた」と嬉しそうに語ってくれた。そうした聴衆からの“声なき言葉”をしっかりと捉えてボニーはますます調子を上げる。ダイナミックな音の動きが見られるリストの歌曲では、彼女の歌声がいっそう豊かにホールに響いた。

ボニーは、男声用リートを女性らしい慈愛の深い情感をもって私たちに伝えてくれた。男声に歌われてきた前例を軽やかに飛び越え、素直に自分の持ち味を生かして表現していくしなやかさ。そこに、私はリートに生きる彼女の確かな意志と強い自信を感じた。自ら日本語で曲名を紹介したアンコールは、シューマン くるみの木(歌曲集 ミルテの花 第3曲) シューベルト 糸を紡ぐ グレートヒェン、リスト どうか夢に現れよ 《松田》アンケートから 3、4年前来日がとりやめられて、チケットをキャンセルしましたので、今日はうれしいです。すばらしい2時間でした。ゆめのようなとは、このような事をいうのでせう(水戸市:G.T.さん) フィッシャー=ディースカウの 冬の旅 が大好きだが、ボニーのソプラノは「天使の魂の歌」だ。あくまでも清らかで温かで美しい(那珂郡:M.S.さん) これまでドイツの方だと思いついていましたが、米国人であると知って、意外な驚きでした(ドイツ語が、非常にそれらしく感じたからです)(水戸市:Y.K.さん)



1



2



3



4



5



6



7



8

ファミリー・ワークショップ『音遊び / 箏遊び』  
(9月22、23日、10月19、20日)

野村誠&箏衛門 コンサート

今年からスタートした学校完全週5日制に連動して、週末に子供達やそのご家族をコンサートホールに招いて、音楽のワークショップを楽しんでいたこと開催した『音遊び / 箏遊び』。作曲家・野村誠と箏アンサンブル「箏衛門」とのワークショップに、16名の子供たちと7名の保護者や大人の方が参加した。ワークショップの内容は、(1) 箏を自分なりに鳴らして音で遊ぶ(2) 野村がそこで作られた素材を集めて新作を書く(3) ワークショップ最終日にお客さんの前で新作を演奏する、というもの。

印象的であったのは、演奏に参加する人たち皆の笑顔であった。この音楽作りの場に、優劣は存在しない。ひとりひとりの感性や能力が自由に発揮され、そして完成されたひとつの音楽を皆で共有し演奏する。つまり、自分の個性を大いに発揮し、互いがそれを尊重しあい、そして仲間として助け合いながらひとつの目的に向かっていく 大げさかもしれないが、そうしたひとつの理想的な社会の縮図が、このワークショップのなかで実現されていたのかもしれないと思った。

そして、いよいよ最終日。ワークショップ参加者達は、眩いライトを浴びながら聴衆の待つステージへと飛び出していった。演奏会の様子は、下記のアンケートをご覧いただきたい。なお、今回の新作は「せみBongo」というタイトルが付けられ、近い将来CD発売される予定である。発売日等の詳細は、決まり次第本紙でもお伝えしようと思う。《中村》アンケートから 最高でした!! 未知の世界を知ってしまったような……。野村さんも箏衛門の皆さんも、ワークショップの皆さんも素晴らしいかったです。みんな楽しそうでした。晴れぱれていて、箏という楽器の現代的な魅力を知り、箏衛門の魅力も知りました。ファンになりました。カッコイイ!! 野村さんのピアノ曲では、惚れました。聴き終わると体が熱くなってきました。最後の曲では、何でもアリの世界で、しかしまとまった1つの曲になっている、というのがおそろしくもあり、おもしろかったです。あんな風に音楽を楽しめたら、とらやましくもなりました。今日は観客になれた事、ウレシク思います。(水戸市: K.S.さん) 楽しいコンサートでした。箏のいろいろな面がでていてとてもよかったです。昔の楽器というイメージが強かったのですが、とても楽しく現代にマッチした音楽になっていました。箏衛門のメンバーは素晴らしい演奏でした。野村誠さんのやさしさが音楽にあらわれていて、心がなごむコンサートでした。(水戸市: R.S.さん) ワークショップのキッズの音遊びにはびっくりしました。楽しそうに演奏しているのが素晴らしい。曲のだ

いご味は 52×51 が最高!(無記名の方)

マリー・クレール・アラン オルガン・リサイタル  
(10月28日)

この感動をどのような言葉で伝えたら良いのだろう。マリー・クレール・アランの演奏は、彼女の生きざま、心のあり方の表明であるかのように感じられた。それは、光に包まれた音楽であった。儚い命をいとおしみ、辛いことや悲しいこともあるが、生きることは楽しいことだ、と彼女の音楽は語っているようであった。前半は、フランスのパロック作品とJ.S.バッハの作品が演奏された。バルバートルのノエルは、可憐で幸福感に溢れていた。バッハのコラールは、全てが赦されていた。そして、後半は、フランク、父・アルペール、兄・ジュアン作品というフランス近・現代プログラム。亡き父や兄の作品の演奏を通じて、彼女はきっとこの愛する人たちと今でも会話を交わしているのだろう。アンコールは、J.S.バッハ 目覚めよと呼ぶ声あり BWV645 とJ.アラン 連禱。《中村》アンケートから アランを聴きたいという長年の想いがなかった上に、地球的、宇宙的な音の広がりそれぞれを可能にする完璧なテクニックに感動の一夜でした。それにしてもパイプオルガンのある街に住んでいて良かった。(ひたちなか市: Y.K.さん) 20年前ICUでアランさんの演奏を聴きました。今日の演奏は水戸のオルガンによるもので感激しました。私と同年と思われませんが、体力の衰えを感じさせず、すばらしい体験をさせて頂きました。お父さん、お兄さんの曲、とてもすばらしい。水戸のオルガンの機能がすべて出尽くされていた。生きていてよかった。(水戸市: O.T.さん) 後半のアラン一族の数曲が、音も鳴り切り名技も披露されて、やっぱり当夜の白眉でしたのでしょ。でもアンコールの知られたバッハもまた良くて。(土浦市: H.I.さん)

ブロムナード・コンサート

ヴァリエーションズ - 3 (10月13日)

ブロムナード・コンサート ヴァリエーションズシリーズの第3回公演。今回の出演は、ロワゾ・サクソフォンカルテット(ソプラノ・サクス: 粟田美奈子、アルト・サクス 温泉川幸子、テナー・サクス: 貝塚由佳、バリトン・サクス: 蓼沼雅紀)。サクスの官能的な音色がエントランスホールいっぱい響き渡った。演奏曲は、ヘンデル シバの女王の入城、久石譲 Summer など。2回目の公演のアンコールでは、ビートルズの プリーズ・プリーズ・ミー まで飛び出し、聴衆を沸かせた。なお、今回はクリスマスとお正月のスペシャルを予定。内容はP.10のインフォメーション欄をご覧ください。

《中村》



### 特別版:ジカダンパン報告

この報告は、水戸室内管弦楽団第51回定期演奏会の際お客様に配布したものと同内容です。(一部新たに加わったデータに直してある部分がございます)

お客様各位

平成14年11月9日

水戸芸術館音楽部門

10月21日(月) テレビ東京の番組「ジカダンパン」(21:00-21:54)で、水戸芸術館の運営、特にコンサートホールを扱った「血税9億円投入公共施設の謎」が放映されました。同番組は、市民、県民の不満の声を取り上げ、行政の責任者を番組に登場させ直接議論させるという趣旨のもとに制作されています。10月14日(月)から始まった番組です。水戸芸術館が取り上げられたのは、その2回目でした。その内容は、館の運営特にコンサートホールの運営について誤解を招く恐れがあり、またこれまでご支援賜った方々にご心配をおかけするものでしたので、番組収録の段階、そして放送終了後も事務局長名でテレビ東京に抗議文書を送付いたしました。今回の件に対しまして、下記のようにまとめましたので、当館音楽部門の運営に関心を持つ皆さま方にご一読いただければ幸いです。

平成14年10月31日

関係各位

水戸芸術館館長 吉田秀和  
事務局長 大津良夫

(1) 去る10月21日TV東京の番組「ジカダンパン」で水戸芸術館を扱った「血税9億円投入公共施設の謎」が放映されました。

その内容は、芸術館は水戸市からの支出金9億円で運営が可能になっている上に、音楽ホールは休んでいる日があるのに市民には自由に使わせないということの批判に重点をおくものでした。しかし、これは公正客観的な見方からやや外れているもので、当芸術館の運営について誤解を招く恐れのある番組でした。

それに水戸芸術館は、地方自治体の助成で運営されている同種の施設で日本の代表的なものの一つであります。したがって、当館をあのよう扱うことは、今後、地方自治体の芸術文化振興の意欲に水を差すことになりかねません。

(2) この番組には、放送局からの要請にもとづいて芸術館から事務局長(大津良夫)がスタジオに出演したほか、館長(吉田秀和)も録画出演しました。はじめから持ち時間2分という局からの指定を受けた吉田

は、以下に提示したような談話をいたしました。

「水戸芸術館のことを皆さんに知っていただく機会ができて、とても嬉しく思います。

水戸芸術館は、創立以来、かなり高い成果を上げてきました。それは水戸市民の方々にも正しく評価されているんじゃないでしょうか。

去年ある人が、「水戸芸術館ができて、水戸の芸術的文化的状況が向上したと思いますか?」というアンケートをしました。そうしたら、「そうだ、“Yes!”という答えが、実に74.12%にのびりました。これは、あだやおろそかな数字ではありません。

評価が高い理由は簡単です。市民にいいものを提供しているからです。いいものとは何か。芸術の場合、料理と似ているのでそれに例えて言うと、いい材料を仕込んで、手間ひまを惜しまずに丁寧に作ることにつきます。

例えば、水戸室内管弦楽団は、一つの演奏会のために5日間たっぷりリハーサルをします。それも本番と同じホールで。これは音楽家の理想です。しかし日本ではそれができるところは限られている。でも、芸術館ではそれが可能なんです。

館は年に50~60回の演奏会をします。その1回1回に、何日もリハーサルをやる。全部で何日必要となるか。それは私が言わなくてもわかるでしょう。

しかも、開催される演奏会の半分以上、60%近くが水戸市関係の音楽家と音楽を愛する市民のための催しとなっています。

そのほかにホールは、保全その他で万全の状態をいつも維持してなければならぬ。その全部を、ごく限られた人数の職員が精一杯働いてこなしているのが、この芸術館なのです。こうして、一口で言えば、このホールでは空いた日なんて一日もないのです。

私は以上が、水戸芸術館が日本だけでなくヨーロッパでも高い名声と信頼を得た原因だと思ってます。

この番組をご覧になっている皆さん、ぜひ芸術館にいらっしゃってご自分の目と耳で確かめてください。そうすればわかりますよ。」

以上の話は、2分間をはみ出したので、言い淀みや重複その他で細かな刈り込みがなされ、放送されたものとはわずかな違いがあります。ここでは本来の内容を掲げました。

(3) 番組の終わりのところで、大津の「市民音楽会などにどうぞ皆さん応募してきて下さい。」という発言が放映されていましたが、あの場面では、大津は以下の如き発言をしましたが、その一部が使われただけでした。

「水戸芸術館の運営で大事なことは、市民の皆さんの芸術活動の充実にお役に立つ点にあると思います。そのために、どういう事業をやったらいいいのか、関係者一同は知恵を絞ってこれまで一生懸命に努力してきました。

その結果、いまやコンサートホール・劇場とも、催し物の半分以上が市民の皆さんが出演したり参加したりするものになっています。

今回、話題になったコンサートホールでは、「市民音楽会」「茨城の名手・名歌手たち」「地元演奏家の企画する演奏会」や、日本を代表する音楽家を講師に招いての「合唱セミナー」そして「小中学校芸術館コンサート」など、多くの事業を開催してきています。

しかし、これら事業についての広報が行き届いていなかった点もあるかもしれませんが、これまで以上に周知徹底を図りますので、どうぞ皆さん応募してきて下さい。」

(4) 放送のあと11月12日までに、芸術館にはつぎのような反応があり

ました。(この部分は原文では10月27日現在ですが、その後寄せられたデータを加えたため原文の発行日より後の日付になっています)

電話...3件

芸術館の運営について肯定的な評価...2件

否定的な評価...1件

FAX...1件

芸術館の運営について肯定的な評価...1件

否定的な評価...0件

メール...34件

芸術館の運営について肯定的な評価...30件

否定的な評価...4件

合計...38件

芸術館の運営について肯定的な評価...33件

否定的な評価...5件

以上の賛否両論をありのままご覧いただきたいのですが、1人1人の承諾か否かをお問い合わせをした結果、公開にご同意いただいたものをすべて以下に掲載いたします。残念ながら、否定的な意見を寄せられた方は、どういうわけか、全員公開を望まないという返事なので、ここには出てきません。念のため。

また以下のwebサイトにてご覧いただけます。

<http://www.arttowermito.or.jp/jika/jikalistj.html> および

<http://www.arttowermito.or.jp/nettama/nettamaj.html> をご覧ください。

(5) ご覧いただいた通り圧倒的な数が芸術館の在り方、従来の業務を肯定的にとらえたもので、特にそれを変更することのないよう希望を激励するものが絶対多数です。

したがって、当芸術館と致しましては、番組で館長と局長の話した通りの運営方針を変える必要はないということを改めて確認した次第です。

水戸の市民の皆さんをはじめ、関係各位この問題に関心をお寄せ下さった皆さんは、ご安心の上、これまで通りの水戸芸術館に対するご信頼、ご期待をお願いいたします。

以上

H.HONDA様 / TV「ジカダンパン」を見て。水戸芸術館がんばれ!

Date: Mon, 21 Oct 2002 23:45:57

今、テレビ東京の番組「ジカダンパン」を偶然見ました。

テレビ出演というまな板に載せられてしまった芸術館の代表の方(お名前を忘れてしまい申し訳ありません) 応答・対応ともたいへん立派で感激しました。

もともと水戸芸術館は、佐川さんの時代に、質の高い芸術活動を継続するため市の予算の1%を運営費に当てるという英断から始まったように記憶しています。確かに大金ですが、箱だけ形だけに留まってしまわないものにするためには絶対に譲りたくないところだと、開示される予算を見るたびいつも感じていました。

そこへ、この番組。番組の趣旨からすると、つるし上げ気味の過激な発言をして盛り上げるとい側面はあるにせよ、一部理不尽で自分勝手な(と、私には思える)コメンテーターたちの発言に臆することなく、水戸芸術館への熱い思いを語られたこと、一市民としてたいへんうれしくありがたく思いました。出演された方の力説により、途中からは大方のコメンテーターの皆さんも理解を示していた様子でした。館長の言葉も紹介されていたのが、番組的には公正な感じがしてよかったです。最後は水戸市に対しきつい言い方で締めくくられましたが、それは、この話題を同テレビ局に持ち込まれた方の立場や番組の存在意義を出演者も局側も考えてのことだと思えます。

番組の中で、館長もおっしゃられていましたが、こういった形でも、この番組に取り上げられたことは、今後芸術館および水戸市の芸術観がますます注目を浴びていききっかけになったのではないのでしょうか。これからもがんばってください。期待しています。

ベーターベン様 / 投稿

Tue, 22 Oct 2002 02:33:46

10月21日(月)9時からテレビ東京の『ジカダンパン』で、「血税9億のゆくえ」と題して水戸芸術館がとりあげられているのを見ました。市民の税金で経営されているというのに、水戸芸術館のコンサートホールは市民に開放されていない、稼動も一年間に50日から60日にすぎない、という内容でした。正直言って、この番組の主張は、「市民」の名のもとに文化のクウォリティを低下させようという暴挙に見えました。文化というものは、何が何でも万人が等しく享受しなければならぬとする、いかにもマスコミ的な俗流主義にも、あらためてあきれた次第でした。



私は水戸市民になって5年ほどですが、この水戸芸術館は、アートも音楽も、地方のこの種の施設にしては(という地方であることを生かして)非常に高いクオリティを持っていると思っています。(リサイタルや室内楽の演奏会がもう少し多ければ、もっといいのですがね。)しかもそのことに極めて自覚的に取り組んでいるのが好ましいと思っています。このクオリティと姿勢はこれからも維持していただきたいと思います。いくら市民の税金で支えられているからといって、どこにでもある「地方公民館」的な施設になってしまえば、その存在意義がなくなってしまい、かえって税金の無駄遣いになると思います。番組では市役所の方が出演され、館長の吉田秀和氏も録画で話をされていました。これはこれで誠意のある対応であったのでしょうか、このような批判に安易におもねる必用はないと思います。(音楽部門情報誌・vivo「ネットマネット」への投稿希望)

芝八様 / 気になる「ジカダンパン」

Sat, 26 Oct 2002 23:31:48

ベートーベンさんの投稿を読んで、「ジカダンパン」の放映内容が想像つきました。番組は全く観ていなかったのですが、この種の問題は気になっているので、あるいはちょっと的外れになるかもしれませんが、一言言わせてもらいます。

一時期、あちこちの自治体が立派なコンサートホールを建てました。その頃から私は、その自治体が、ソフト面にどれだけ金を使っているのかが気になっていました。目に見えないところで金を使うのが、文化の創造だと信じていましたから…。やはり、どんなに立派なホールを建てても、独自の発想のない(つまりソフト面で金を使わず)後追い演奏会を続けているようなところは、柿落としがすめば、あとはほんの一二年でした。…そうなるのは当たり前。また、ちょっと独自の良い企画を持っていたところで、予算を減らされるともう維持できなくなっていきました。一時期は、私の家の近くのホールでもNADAの演奏なんか聞けたのですが、最近はどうなったのでしょうか。それが、ゼネコン主導の箱物行政による文化施設の実態でした。中身で勝負できない文化施設は、どんなに立派なものでも「猫の手」にも及ばない。うちにいる猫なら背中ぐらいい掻いてくれる。その点、水戸芸術館のありようは立派でした。いつもきちんとした企画力があって、私には縁遠いプログラムもたくさんありましたが、安心して見ていられました。最近では、水戸デラルコの結成なども、英断だと思っています。そんな世界にも発信できるほどのカルテットを支援していくことが、どうして「税金のムダ遣い」になるのでしょうか。

ここに「ジカダンパン」のプロデューサーの見識が暴露されていると思います。形に見える物にしか価値を認められない…それが文化国家を自認する、マスコミ文化の先端を行く知識人の発想でしょう

か。そんなTV屋さんのつくりだすTVエセ文化にますます犯されていく日本。寂しいですね。こんなマスコミが跳梁すれば、これからは、もっときびしい時代がくるかも知れません。しかし、どんなに施設や環境が貧しくても、人を圧倒する文化は生まれました。だから、未来がどんな時代になっても、今を凌駕できる文化を生み出すことも可能だと、私は思っています。

芝八

この放送の後、11月9日現在に至るまでにマス・メディアを通じ2つの反応がありました。

『週刊新潮』11月7日号に掲載された『「みのもんた」に噛みついた水戸芸術館』。この記事は10月21日の「ジカダンパン」の放映内容を紹介した後、水戸芸術館に取材し、大津事務局長のコメントを掲載しています。同誌はテレビ東京への取材も行うべく接触したところ、「物理的にお受けできません」(テレビ東京広報部)との返事しか得られず、「ジカダンパン」のキャッチフレーズである「責任者出てこい」の一言をテレビ東京に投げかけて記事を締めくくっています。

11月6日(水)付読売新聞全国版夕刊紙面にて、水戸芸術館音楽部門・演劇部門企画運営委員を務める作曲家の池辺晋一郎が自身のコラム『耳の渚』においてこの問題を取り上げています。しめくくりの文章を引用しましょう。「音楽の王道は享受だ、と言ったのは誰だったか。水戸芸術館がコンセプトを貫けるかどうか、がこの国のひとつの文化の物差しになるのではと、僕は思うのだが…。」

「ジカダンパン」放映の翌日以降から寄せられた声は、前述の通りその大部分が芸術館のこれまでの方針を支持し、応援する内容でした。また、水戸および県内の多くの音楽家の方々からも、力強いお言葉をいただきました。私たちは強く勇気づけられ、励まされています。しかしもちろん、それに甘えるつもりはありません。芸術館をよりよいものにするため、今後も精一杯努力して参りますので、今後ともよろしく御願い致します。

## information

チケットに関するお問い合わせ

...水戸芸術館チケット予約センター / 029 - 231 - 8000  
営業時間 / 9:30 ~ 18:00(月曜休館)

公演内容や企画に関するお問い合わせ

...水戸芸術館音楽部門 / 029 - 227 - 8118

【ATM便り】毎月1回茨城新聞に不定期登場。

【アートタワー通信】第1・第3週に1度、新しいばらき新聞に登場。

NHK-FM水戸【FM水戸アップデート】木曜日 18:15頃 ~ 15分ほど(不定期登場) 水戸周辺83.2MHz、日立周辺84.2MHz。

## チケット・インフォメーション

12月7日(土)発売分

ちよっとお昼にクラシック2 エレガントな気分<sup>トリオ</sup>で三重奏はいかが?  
1/29(水)13:30開演 料金(全席自由):¥1,200(ドリンク付)  
この演奏会では、託児サービスをご利用いただけます(定員20名)。

ATMアンサンブル 第18回演奏会  
ブルックナー&シェーンベルク ウィーン幻想交響楽  
2/23(日)18:30開演 料金(全席指定):A席¥3,500 B席¥2,500  
ペア・チケット(A席50組限定)¥6,000 水戸芸術館のみの発売です。

合唱セミナー2003 講師:松下耕 3/2(日)10:00開始  
参加費(全席自由):一般¥1,000 高校生¥500 中学生以下¥300

現代音楽を楽しもう XV 清水靖晃 3/8(土)18:30開演  
料金(全席自由):¥3,500

水戸うら女声合唱団 25周年記念演奏会  
3/9(日)14:00開演 料金(全席自由):¥2,000

ATMアンサンブル 第18回演奏会には、12月4日(水)より友の会の  
先行電話予約があります。

12月15日(日)発売分

水戸室内管弦楽団第53回定期演奏会  
2/8(土)19:00開演、2/9(日)14:00開演、2/10(月)19:00開演  
料金(全席指定):S席¥13,000 A席¥11,000 B席¥8,000

発売初日に芸術館でお求めになれるチケットは、水戸室内管弦楽団  
第53回定期演奏会ではお1人様1回につき2枚までとさせていただきます。

水戸室内管弦楽団第53回定期演奏会には、友の会の先行予約が  
あります。

## これからの演奏会・残席情報

○...残席あり(20席以上) ...残席わずか(20席未満) x...残席なし 中央...中央  
ブロック 左右・裏...左右ブロックおよびステージ裏 補助...補助席

畑中良輔の 日本のうた セミナー 第2期  
12/7(土) ...自由席  
3/15(土) ...自由席  
クリスマス・プレゼント・コンサート 2002  
12/23(月) ...中央x、左右・裏  
ニュー・イヤー・コンサート 2003  
1/5(日) ...中央x、左右・裏

11/14(木)現在の状況です。

公演当日に残券がある場合、開演1時間前より水戸芸術館チケット  
カウンターでお得な学生券を発売いたします。ご購入の際には学生証  
(記名章)をお持ちください。公開セミナーなど、学生券のない公演も  
ございますので、予めお問い合わせ下さい。

固定席が売り切れ次第、補助席を販売いたします。

## 水戸芸術館12・1月の主なスケジュール

### コンサートホールATM

畑中良輔の 日本のうた セミナー 第2期「橋本國彦」  
12/7(土)14:00開始 料金(全席自由):¥1,500  
アートタワーみとスターライトファンタジー 第7回 クリスマス・コンサート  
12/8(日)【午前の部】10:00開演 【午後の部】14:00開演 入場無料  
クリスマス・プレゼント・コンサート 2002  
12/23(月)17:00開演 料金(全席指定):A席¥3,000 B席¥2,000  
ニュー・イヤー・コンサート 2003  
1/5(日)17:00開演 料金(全席指定):A席¥4,000 B席¥3,000  
ちよっとお昼にクラシック2 エレガントな気分<sup>トリオ</sup>で三重奏はいかが?  
1/29(水)13:30開演 料金(全席自由):¥1,200(ドリンク付き)

### エントランスホール

パイプオルガン プロムナード・コンサート  
12/1(日)12:00/13:30 12/15(日)12:00/13:30 1/19(日)12:00/13:30  
1/25(土)13:30/15:00  
クリスマス・スペシャル企画 12/22(日)12:00/13:30  
指揮:斎藤由美子 / 合唱:県立水戸第二高等学校コーラス部 オルガン:坂垣敬子  
宴や夜市(京町商店会関連企画)  
12/20(金)18:00 - クリスマス音楽特集 -(出演はクリスマス・スペシャル企画と同じ)  
1/24(金)18:00  
ヴァリエーションズ 茨城県内の演奏家による、さまざまな器楽や声楽が登場する  
新しい演奏会シリーズ 1/18(土)13:30/15:00 岡本孝司・千邦子(尺八・箏)  
入場無料 演奏は各回20分程度です。

### ACM劇場

スターライト・チャリティ公演「スーホの白い馬」  
12/14(土)18:30開演 料金(全席自由):一般¥2,500 小中学生¥1,500  
平成14年度文化庁芸術拠点形成事業 KUSHIDA WORKING『スカパン』  
1/24(金)19:00開演、1/25(土)19:00開演、1/26(日)14:00開演、  
1/31(金)19:00開演  
料金(全席指定):A席¥5,000 B席¥2,500 12/14(土)チケット発売

### 現代美術センター

12人の挑戦 大観から日比野まで  
10/5(土)~12/8(日)9:30~18:00(入場は17:30まで) 休館日:月曜日  
クロード・レヴェック展  
12/21(土)~3/9(日)9:30~18:00(入場は17:30まで)  
休館日:月曜日ただし12/23、1/13(月)は開催、12/24、1/14(火)は休館 年末  
年始12/28(土)~1/3(金)  
入場料:一般¥800 前売・団体(20名以上)¥600 中学生以下、65歳以上、各種障  
害者手帳をお持ちの方は無料

## 茨城の主な12・1月の演奏会

佐川文庫 TEL / 029(309)5020 ヤブロンスキー ピアノ・リサイタル 12/1  
(日)18:00開演 常陽藝文センター TEL / 029(231)6611 市毛恵子 ピアノチ  
ャリティコンサート 12/8(日)14:30開演 茨城県民文化センター TEL / 029(24  
1)1166 ゲルギエフ指揮 キーロフ歌劇場管弦楽団 12/2(月)18:30開演 茨  
城大学管弦楽団 第28回定期演奏会 12/22(日)14:30開演 (問)松本 TEL / 090  
(8674)3851 上松美香 アルバ・コンサート 12/26(日)15:00開演 水戸市民会  
館 TEL / 029(224)7521 茨城大学混声合唱団 第52回定期演奏会 12/21  
(土)16:00開演 日立シビックセンター TEL / 0294(24)7711 日立交響楽団  
第95回定期演奏会 12/1(日)14:00開演 (問)日立製作所 桑原 TEL / 0294(55)  
2226 第8回 ニューイヤーオペラコンサート 1/12(日)14:00開演 大宮町文化  
センター・ロゼホール TEL / 0295(53)7200 聖夜のトランペット 12/11(水)  
18:30開演 常陸太田市市民交流センター・バルティホール TEL / 0294(73)1234  
藤井香織&裕子 ニューイヤー デュオ・リサイタル 1/18(土)15:00開演 ギター文  
化館 TEL / 0299(46)2457 伊東芳輝 ギターリサイタル 1/19(日)15:00開演  
Jパホール TEL / 0298(52)5881 ウィーン・シュランメル・アンサンブル 12/  
6(金)19:00開演 庄司妙矢香 ヴァイオリンリサイタル 12/14(土)17:00開演  
ウィーン・オペラ舞踏会管弦楽団 ニューイヤー・コンサート 2003 1/2(木)17:00開  
演 チョン・ミョンファン指揮 東京フィルハーモニー交響楽団特別演奏会 1/13(月)  
15:00開演 玉里村総合文化センター TEL / 0299(26)9111 クリスマス ピア  
ノコンサート 熊本マリ 12/15(日)17:00開演

水戸芸術館音楽紙【ヴィーヴォ】 2002年12月発行 第87号  
編集・発行/水戸芸術館音楽部門 〒310-0063 茨城県水戸市五軒町1-6-8  
TEL:029-227-8118 FAX:029-227-8130  
e-mail [ankmr@arttowermito.or.jp] URL [http://www.arttowermito.or.jp/]  
編集 / 水戸芸術館音楽部門(五十音順):関根哲也 中崎美智代 中村 晃 馬場千恵  
松田善幸 矢澤孝樹(編集長)  
DTP / office west  
印刷所 / 株式会社あけぼの印刷社

次号は...2月にビッグ・プロジェクト 自白押し!